



こんどこそまけないわ

私たちの作品

上塚小五年 齊藤千鶴子



三月のおわりごろです。あいい色の空が、ところどころうす紅色に染まって、あるかないかの風が、ほおをなでていきます。大木商店へ、やすこちゃんと、順子ちゃんと、さとみちゃんと、妹と、かいものをして帰る途中のことでした。さとみちゃんが、きゆうに「お寺のおそうじをやろうよ、ね、ね。」と、言い出しました。その日は、ちようと部落児童会があつて、先生が、「ボランティアをやりましょう。」と呼びかけたばかりでした。それで、学校の帰りに「ボランティアをやりたくないあ。」と、言っていたから言い出したのだと思いましたが、

少し考えて、「いいよ。」と言いました。わたしの家の庭で相談してお寺の草とりをやることにしました。そして、いちどみんなは道具をとりに家に帰りました。しばらくして、わたしの家にあつまつてお寺にいきました。ぼうしをかぶってきた人、ながぐつをはいてきた人、ゴム手袋をはめてきた人、ふだん着に着かえて、くまでやかまをもつてきた人などいろいろでした。

お寺についてあたりを見ると、あちらこちらに草がいつばいはえていて、木の葉もたくさん重なり合つて、地面にへばりついてしめつぱいにおいが鼻をつきました。私は、「これだけやるのはいたいへんだなあ。草はいっぱいはえて根つ子をはっているし、木の葉もあちらこちらにおちているし。」と思っていました。

やっているうちにさとみちゃんが、「だれがいちばん草をとれるか、きょうそうしよう。」と言いま

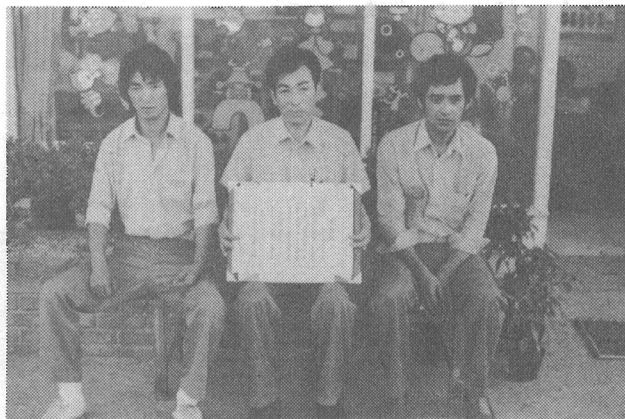
した。「よし、一位にならなくちゃ。」と意気こんで、手でむしりはじめました。草をぬくたび汗が出て、手がすべりました。ひたいが汗ばんできました。みんな、だまつてぼりぼり音を立てています。手がいたくなってきました。だれもやめません。だんだんなれてスピードが出てきました。わたしも負けるものかと、前より力を入れました。

草とりの一等は、順子ちゃんでした。ピリはさとみちゃんでした。妹が、「さとみちゃんが草とりのきょうそうしようと言つたのにピリだ。」と言いました。みんながさとみちゃんの顔を見てわらいました。さとみちゃんは、大きな目をひらいてぷーとふくれしました。私が、「すぐきれいになつたね。」と言つたので、みんな「うわーっ。」と、大きな声をあげました。お寺の回りが、くらかつたのに、急に明るくなつたような気がしました。わきの畑で草とりをしていたあつぱのおばさんが、「きれいなつたね。ごろうさま。」と、腰をのびしながら、声をかけてくれました。さとみちゃんや順子ちゃんも、赤くなりました。

「また、お寺のそうじをやろう。」と言いながら、みんなとさよならをしました。

初期消火で大火免れる

市原石油店に感謝状



▲ 消火活動に尽くされた市原石油店の方々。
(写真右から 神保・市原・萩原さん)

6月16日、八日市場市外3町消防組合(越川好雄消防長)から市原石油店(市原義仁・本町第1)の従業員の方々に感謝状が贈られました。

市原さん他3名は、6月7日午後5時48分頃同店で営業中、隣家の食堂炊事場附近から出火した建物火災をいち早く見つけ、通報、初期消火活動に尽くされ、被害の拡大防止に貢献された功績によるものです。